

震災復興を御来光に祈る 津波避難タワーで元日訓練

we support



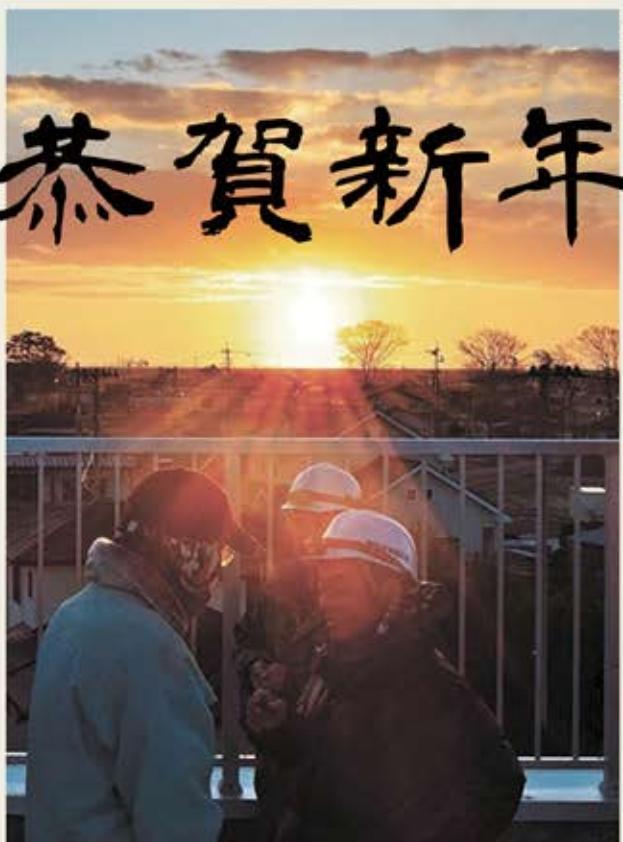
MONTHLY

復興支援
かわらばん「東北に黒糖を送ろうー大作戦しんぶん」改め
すけさきたしん
ぶん

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

(2018.1.3 河北新報ONLINE NEWS)

東日本大震災から7度目の新年を迎えた1日、津波被害を受けた仙台市宮城野区の新浜地区で、住民らが地区の津波避難タワーを使った避難訓練を実施し、屋上で初日の出を拝んだ。



▲津波避難タワーの屋上で初日の出を眺める住民ら=1日午前7時ごろ、仙台市宮城野区岡田

住民有志の団体「新浜オダヅモッコ俱楽部(くらぶ)」が初めて主催した。訓練は午前6時、震度7の地震に伴い津波警報が発表されたとの想定。俱楽部主宰の村主英幸さん(58)がメガホンで住民らに避難を呼び掛けて回った。

住民や震災後に移転した元住民ら約100人が高さ10メートルの屋上に集まつた。午前6時55分ごろ、地平線から太陽が顔を出すと、震災で亡くなつた人たちへの思いを込めてそれらが手を合わせた。

震災後に宮城野区の上岡田地区に移転した無職菊地充夫さん(68)は「またみんなで集まれてうれしい。ふるとが少ししつ活氣ある町に戻ることを願つている」と話した。

俱楽部によると、約150世帯が暮らしていた新浜地区は津波で約60人が犠牲になつた。現在は約70世帯が住んでいるという。

JR常磐線

6年超不通の富岡-竜田が再開

(2017.10.21 毎日新聞・共同)



JR常磐線の富岡駅-竜田駅間の運行が再開され、竜田駅に到着した電車を出迎える富岡町の宮本裕一町長ら=福島県富岡町で2017年10月21日午前9時59分、西木崎撮影

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の影響で6年7ヶ月間、不通となつていたJR常磐線富岡(福島県富岡町)-竜田(同県楢葉町)の6・9キロの運行が21日、再開した。普通列車が1日11往復する。

竜田駅発の始発列車には約30人が乗り、車窓から外の風景にカメラを向ける姿が見られた。避難先の同県いわき市から昨年7月、楢葉町に帰還した草野厚子さんは「(J)Jまで復旧するのは本当に大変だったと思う。めでたいね」と笑顔。「トンネルも昔のまま」と感慨深そうにつぶやいた。

残る常磐線の不通区間は第1原発が立地する双葉、大熊両町を通る富岡-浪江の20・8キロ。



今日は最後の終着駅



明日からは通車駅だよ

(2017.10.20 on Twitter)



今日は最後の終着駅
明日からは通車駅だよ
(2017.10.20 on Twitter)



今日は最後の終着駅
明日からは通車駅だよ
(2017.10.20 on Twitter)

JANUARY
11
2018

